

施策6 道路機能の有効活用

目指す姿

- 地域の特性を生かした魅力ある地域環境を創出します。

ひろしま未来チャレンジビジョン (P115) より

道路の役割

- これまでに蓄積された道路の潜在機能を最大限発揮し、地域の多様なニーズに迅速に応えます。

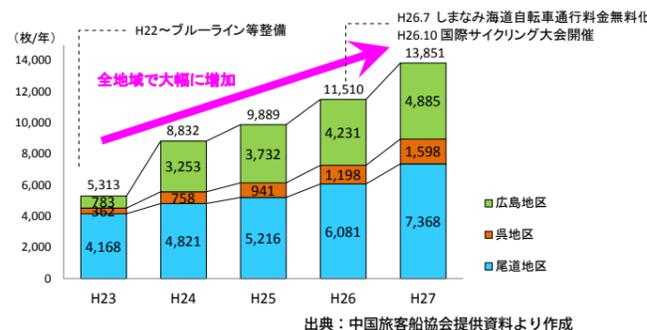
現状と課題

- サイクリングロードや道の駅が観光分野にも好影響を及ぼしています。
- 交通量が少ない未改良区間については、小規模な改良等で課題を解決する工夫が必要となっています。
- 本県の強みである井桁状高速道路ネットワークを賢く使い、潜在機能を最大限活用することが重要です。

既存道路をサイクリングロードとして活用

しまなみ海道サイクリングロードを中心に県内各地でサイクリングが盛んに行われています。

せとうちサイクルーズPASS販売数の推移(4月～11月)



県内各地でイベントの開催(やまなみ街道サイクリングロード)



ブルーラインの整備によりノーマップサイクリングが可能に(しまなみ海道サイクリングロード)

道の駅における賑わいの創出

地方創生に向け道の駅を活用した様々な取組が行われています。



県内に設置されている道の駅 (18箇所)



地元高校生が考案したご当地ヒーローによる地域振興(道の駅 クロスロードみつぎ)



中国やまなみ街道周辺の道の駅が連携し、大盛況!! (紙屋町シャレオ)

取組の方向

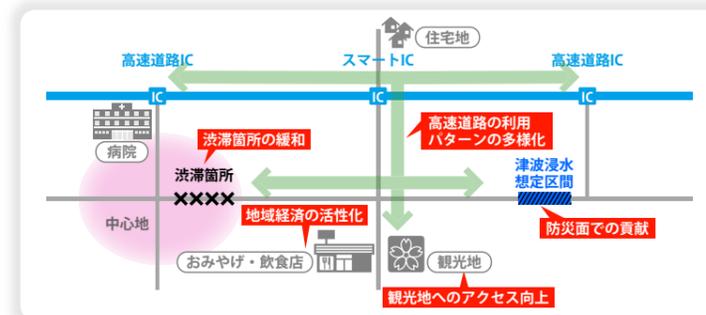
豊かな地域づくり

- 小規模な改良による既存道路の有効活用
 - ⇒地域ニーズに対応した小規模改良等により、日常生活の利便性向上と早期の効果発現に努めます。
- スマートICの整備等による高速道路の有効活用
 - ⇒高速道路ネットワークを有効活用するため、スマートICや付加車線の整備等に関する取組を進めます。
- しまなみを核としたサイクリングネットワークの形成とサイクリストの受入環境向上
 - ⇒地域と一体となって様々なハード・ソフト対策を推進します。
- 道の駅を活用した地方創生の取組
 - ⇒道の駅の整備や効果的なイベントの開催等により、地域の魅力を発信していきます。

スマートICの整備による高速道路の利用促進

スマートICの整備により、様々な効果が期待されます。

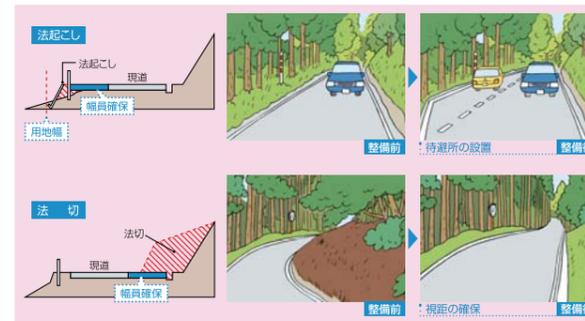
- ・周辺住民の利便性向上
- ・周辺地域の観光振興
- ・救急医療活動
- ・産業活動の活性化 など



日本の高速道路におけるIC設置間隔は平均で約10kmと、欧州諸国に比べ約2倍となっています。広島県におけるIC設置間隔も約10kmとなっています。

小規模な改良による既存道路の有効活用

新設と維持修繕の中間的な位置付けである「再生改良」という考え方を導入し、当面の交通課題が解消できる程度の局所的な改良等により、早期効果の発現が期待されます。



再生改良事業の事例



待避所の設置により、容易に離合ができます。

指標

指標名	現状	目標
多面的な利用を促し地方創生に寄与していきます。 しまなみ海道サイクリング来訪客数	(H26) 約25万人	(H32) 約35万人
高速道路をより使いやすくします。 高速道路におけるIC及びスマートIC、地域活性化ICの設置間隔	(H27) 10.0 km	(H32) 9.4 km

用語説明

井桁状高速道路ネットワーク…中国縦貫自動車道、山陽自動車道を横軸に、広島自動車道、浜田自動車道、東広島・呉自動車道、中国横断自動車道尾道松江線、西瀬戸自動車道を縦軸に形成される広域にまたがる高速道路ネットワーク。
せとうちサイクルーズPASS…サイクリング観光客が、旅客船航路を利用し、エリア内を周遊するための運賃割引カード。
ブルーライン…サイクリングロードの推奨ルートにおいて車道の外側線内側に設置した青色のライン。このラインの設置により、①誰でも迷うことなく目的地までのサイクリングが楽しめる。②自転車利用者に左側走行を促す。③自動車運転者に自転車への注意を促す。といった効果がある。ブルーラインはしまなみ海道サイクリングロードが発祥で、全国のサイクリングロードに広がっている。

スマートIC…高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリア、バスストップから乗り降りができるように設置されるETC搭載車専用のインターチェンジ。